

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エフビー介護サービスの経営理念7項目を重視し、共有、実践している。	法人の経営理念・ミッション・ビジョン・介護方針、各事業所が年度毎に掲げたスローガンなどが記載された「経営方針書」という小手帳が毎年度全職員に配布されている。曜日毎に読み合わせする項目と合わせて「日常の五心」「社は十ヶ条」なども毎朝唱和しケアの統一に取り組んでいる。入居時に利用者や家族に理念などを説明し周知している。理念などにそぐわない言動が職員に見られた時には管理者が個々に声掛けし注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染状況が収束せず、地域の方々との交流が困難であった。	法人として自治会費を納めている。今年度も新型コロナウイルスの影響により制約を受けており、例年実施している地区のライオンズクラブの中のレオクラブの子供達のリコーダー演奏やボランティアの来訪、中学生の職場体験の受け入れ、文化祭への出品、地区の餅つきやしめ縄づくり、防災訓練などへ参加が中止となっている。そうした中、地域の人々から野菜の差し入れ等を頂いており、新型コロナウイルスの収束が待たれるところとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地区への認知症出前講座など行いたかったが、新型コロナウイルスの感染拡大により実施困難であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を実施した。利用者様の状況報告、取り組み事項の報告を行った。又、会議の中で出された意見はサービスに生かした。(感染症予防のため文書による承認の回がありました)	例年であれば、2ヶ月に1回、奇数月に併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、家族代表、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員、消防署長、自治会長、区長、児童民生委員、関係職員参加の下開催されていたが、市高齢者介護課と連絡を取り合い、新型コロナウイルスの感染状況により、書面にて利用者の状況報告や活動報告、写真入りのホーム通信を添えて現況を伝え、返信用シートにて意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、地域包括センター、社協との連携は密に行っており、現況についての報告は積極的に行っている。	自治センター職員とは新型コロナウイルス禍の中、利用状況や入退去状況について情報交換している。運営推進会議の開催についても密に連絡を取り合い、書面での会議開催などの相談をしている。介護認定更新時にはホームとして代行申請し、訪問調査時には日頃の様子などの情報を職員が提供している。新型コロナ前には同席する家族もいたが、現在は中止としている。介護相談員も例年であれば3ヶ月に1回、2名の来訪があり、帰りに利用者の様子などの情報交換をしていたが新型コロナの影響により今は中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年2回の内部研修を行っている。全職員が拘束をしないケアの実践を行っている。	ホームは2階にあるため出入り口は自動ロックとなっている。年に2回、法人本部からの資料等を基に、「虐待防止・身体拘束禁止」をテーマとした内部研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束適正化対策検討委員会が設置されており3ヶ月に1回委員会を開いている。介護度5の方が半数弱と重度化しているが、特に配慮の必要な利用者には転倒・転落防止のため家族の同意を得てセンサーマットなどを使用することがあるが、現在は全くない。やむをえず身体拘束をする場合には「身体拘束廃止委員会」を設置し記録に残し常に解除に向けて検討することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部研修を行い、職員全員が虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者および職員は権利擁護に関する学習を行い、制度の理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時、料金の改定時は十分な説明を行い、理解していただけるよう工夫している。(承諾書の取り交わし)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様が遠慮なく話せる人間関係を構築出来ている。(ケアプラン承認を受ける際やご家族から利用者様への差し入れなどの際は少しの時間でもコミュニケーションを取るよう努力し意見があれば取り入れるようにしている)	意見や要望を表出できる方は重度化に伴い半数弱となっている。職員は日頃の暮らしの中で利用者のできることや好きなことについて声がけし、家族にも馴染みの用品をお持ちいただき協力をいただいている。家族等との面会については感染レベルに合わせ、工夫しながら対応している。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、家族との面会は窓越し面会とし、聞き取ることが難しい方については携帯電話などを使用しコミュニケーションを取るようにしている。毎月送付している写真入りのおたよりとともに一人ひとりの様子も別途お知らせしている。法人ホームページのブログでも活動の様子を見ることが出来る。年1回、家族をお呼びして行っている収穫祭も、新型コロナ禍の中、中止としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼、職員会議のみでなく、必要に応じて職員から意見や提案を聞き反映させられるよう努めている。	リモートで行われる法人内の管理者会議が月1回開かれている。また、それを受け、月1回、ホームとしての職員会議を開き、業務連絡、ケアカンファレンス、研修報告、内部研修などを行っている。法人としての人事考課制度があり、年2回、管理者との面談が行われ、ストレスチェックも行われている。「環境整備に関する方針」が法人として作成されており、「仕事をやり易くする環境を整えて備える」としており、法人の環境委員による巡回があり、働く環境の整備にも配慮がされている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人ひとりの就業環境や家庭環境を把握し、向上心を持ち勤務できるような条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修により自己研鑽を積み、ケアの向上ができるよう計画に沿って学習してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響により外部の同業者との交流が困難であった。(エフビー介護サービス内の交流は可能であった)	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の初回面接や、利用間もない利用者様のご家族様とは密に連絡を取り合い、困りごとやご希望をお聞きし本人の安心を確保できるよう働きかけた。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望、困りごと、不安なことに耳を傾け、関係性の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で何を必要としているのかの支援を見極めるとともに、他のサービスについても視野に入れて対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする仲間であり、人生の大先輩として敬いながら、日々の生活をともに行えるようにしている。(食事準備、掃除、洗濯など)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とともに本人を支えられるよう、近況の報告を密に行いながら情報の共有を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの状況により、自由に会う事が困難であったが、ガラス越し面会や電話などによるコミュニケーションで関係性が途切れないよう努力している。	家族に了解を得て、知人や友人等との面会が窓越しで可能となっている。希望により知人と年賀状のやり取りされる方もいる。家族同伴でホーム利用前からの美容院を利用している方がいる。殆どの利用者が訪問理美容を利用しており顔馴染みとなっている。新型コロナ禍の中、身内の葬儀に一時的に帰宅をした方がいたという。例年であれば年末・年始に一時帰宅したり外泊したこともあるがこの数年は自粛せざるを得なくなっており、また、自由に面会や外出が出来るのが待たれるところとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の状況や人間関係を加味しながら、テーブル席の位置や声がけの仕方など工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても利用された方の告別式、新盆などに顔を出すよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方については生活歴や大切にしていることに目を向け本人の思いに沿ったケアを心がけている。	入居する前の利用者の生活歴などをフェイスシートに記載し、それを参考に、日々、利用者の希望や要望を聞き生活の中に活かしている。新型コロナウイルスの影響を受け自粛となっているが、コロナ禍前は利用者の弾くキーボードに合わせて家族も含め皆で歌を歌ったり、家族にハーモニカ演奏して頂いたりしていたことがあった。利用者からの希望やつぶやき等、聞いた時には申し送りノートに記録し、また、職員間で周知し、希望に応じるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしや趣味、職歴などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状把握のため、一人一人の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で意見を出し合い、モニタリングしながらチームで介護計画を作成するようにしている。	月1回全員参加でケア会議を開き、毎日記録しているケアプラン実行表を基にアセスメントシートやモニタリングシートを作成し、見直しをしている。サービス計画書の長期目標は1年、短期目標は6ヶ月としていることから、基本的に6ヶ月を目安に見直ししている。状態に変化が生じた時にはその都度見直している。新型コロナ禍の中、家族には電話等で状態をお知らせし、文書で意見を頂き、ケアプランの参考にしている。	

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は本人の様子が分かるように記入するよう心がけており、職員間で情報を共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて柔軟な支援ができるよう多機能化に取り組んでいる。訪問看護、訪問歯科、訪問診療、訪問マッサージ、エフビー介護サービスの理学療法士との連携などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については新型コロナウイルス拡大などにより協働で支えることが困難であった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は9名中7名がかかっており、必要に応じた医療を受けることができた。新型コロナウイルスの予防接種については9名全員がかかりつけ医で対応していただけた。	利用契約時に協力医があることを話しており、協力医により月2回、往診が行われている。若干名の方は利用前からの主治医を継続し受診は家族対応としており、受診の際にはホームの看護師から主治医に情報を提供している。ホームには准看護師がおり、また、複合施設1階の小規模多機能型居宅介護事業所の看護師とも連携をとり、全員の健康管理に努めている。協力歯科医の往診が2ヶ月に1回あり、また、歯科衛生士が月に1回来訪し口腔指導を行い、歯科医に情報提供がされている。希望により週2回訪問リハビリによりマッサージを受けている方がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年の8月より准看護師が1名入職した。管理者も看護師免許を取得しているため、必要に応じて介護食の連携が可能であった。又、訪問看護ステーションとの連携もしっかり行えた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には管理者兼ケアマネが必要な情報を提供し潤滑な関係性を持つことが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期ケアについての内部研修を行い、終末期のケアができるよう態勢を整えている。(5月、6月に看取りを行った。)	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係るホームの指針」が明記されている。「看取りについての事前確認書」もあり利用契約時に説明し同意を得ている。状態の変化に伴い看取りについては主治医の立会いの下で家族に再度意思確認をし支援に取り組んでいる。管理者も看護師であり、ほかにホームには准看護師がおり、また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所にも2名の看護師がおり、連携体制が整っている。ホームとして医療(救急対応・AED)の研修も行っている。今年度も家族の希望がありホームでの看取りが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて職員全員が研修を行い、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、年2回の災害避難訓練、消火器による消火訓練などを行い、有事に備えている。	毎年、春は昼間、秋は夜間想定で併設の事業所と合同で年2回、防災訓練を実施している。消火・通報訓練を行っている。今年度も新型コロナ禍の中、5月には昼間想定で避難訓練が行われた。また、9月には夜間想定で消火・通報訓練が行われた。新型コロナの影響で自粛となっているが、例年であれば、年2回のうち1回は消防署立会いで行われている。消防署から地域のハザードマップに沿った土砂災害・水害を想定した訓練を行うよう助言を頂いており、今後、検討したいとしている。万が一に備え、備蓄品も用意されている。	万が一に備え、「水」「カセットコンロ」等が用意されている。かつて、雪害によりライフラインとも言われる配達網が切断され、食料品などの供給が滞ったことがあった。今後、少なくとも3日分の食料品、介護用品などの備蓄をされることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。(内部研修を行っている)	7月には「接遇」、9月には「倫理・法令順守・プライバシー保護」の内部研修を行い、利用者を尊重したケアに取り組んでいる。声掛けも大きな声ではなく近くに寄り添い行っている。居室にもノックし声掛けしてから入室している。利用者の声かけについては基本的に苗字や名前に「さん」付けとしているが、利用者や家族の希望で愛称で呼ぶこともありあくまでも敬意を持って接している。男性職員は在籍していないが、いる時には利用者との馴染みの関係づくりに努め、利用者に希望を聞いてからトイレ介助や入浴介助の支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を表しやすいよう職員は工夫するようにしている。(衣類の選択、食べ物物の選択など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるよう、ご希望をお聞きしながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、ご希望をお聞きしながら対応している。		

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好や噛む力、嚥下能力に応じて楽しめる食事を心がけている。	食事の前には口腔体操も行いスムーズに食事が摂れるよう支援している。配食食材のメニューから選択しており、行事食も希望メニューを発注し職員が調理している。自力で摂取できる方と全介助の方がほぼ半数ずつで、三分の二の方が柔らかめの常食で、三分の一の方がミキサー食となっている。自らのペースで食事をされる利用者もおり生活しやすいよう支援している。収穫祭や頂いた野菜などで季節を感じていただいている。また、職員のアイディアでホーム内での回転寿司を予定しているという。ホットケーキやおはぎなども手作りし楽しんでいる。利用者には下ごしらえなど出来るお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスに気を付けて支援している。水分摂取量なども一日を通じて確保できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携しており、定期的な訪問診療、歯科衛生士の定期的な訪問指導を受けて口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を確認しながら排泄の自立に向けた支援をしている。	定時誘導と様子を見ながら声掛けし、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。布パンツで自立している方とオムツ使用の方がそれぞれ半数となっている。介護用品の購入については家族と相談の上、家族が用意される方が若干名で後はホームで購入している。ポータブルトイレについては現在使用している方はいない。ダブルレット端末で排泄記録も入力しており、排泄パターンも見える化されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日カスピ海ヨーグルトをおやつに食べていただいている。腹部マッサージや食物繊維を多く含む野菜なども摂取していただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴して頂くよう支援している。	基本的に利用者毎に入浴日を決め、週2回の入浴としている。浴室にはシャワー台が2つあり広く、浴槽の淵は利用者が腰かけられるようになっている。現在、職員二人で介助する方やシャワー浴で対応する方がおり、ホームの浴室で対応ができない場合は併設の小規模多機能型居宅介護事業所のリフト浴を使用することも可能となっている。入浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯なども行い、季節感を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に合わせて安心して眠れるよう工夫している。		

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬の目的、副作用についても学習し、状態の変化を見落とさないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で張り合いが生まれるような声がけや活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出られるよう支援に努めた。新型コロナの影響で人混みは避けるようにした。ご家族との外出は受診程度に留めていただいた。	自力で歩行できる方が三分の一、杖歩行の方が若干名、車いすの方が半数強という状態である。今年度も新型コロナの影響により外出も中止という状態が続いており、ホームの周りを少人数で散歩したり、ドライブを兼ね花見や紅葉狩りに出掛け車中で見学している。新型コロナが収束し、外出や地区の行事に参加できることを楽しみにしている。機能低下防止に午前と午後ラジオ体操を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金などは設けないことになっているが、ご本人の欲しいものがあればご家族様に伝え手に入るように努めた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にできるよう支援した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は心地よく過ごせるよう、ソファや観葉植物を配置し、季節感を取り入れて楽しめるよう工夫している。(生け花を2週に1回生けかえている)	リビングは天井も高く周りは窓が多く、観葉植物も置かれ、明るく広々している。浴室はシャワー一台も2つ設置されており、シャワーチェアでもゆっくり利用出来るよう広い浴室となっている。また、ソファも通路に用意され自由に過ごせるようになっている。トイレも車いすが十分回れるよう広く、使い易くなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は一人で過ごしたり、気の合った仲間と過ごせるよう工夫している。ソファや机の座席など。		



グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人が心地よく過ごせるよう、自宅で使い慣れた物や馴染みのものを持参していただき、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはエアコン、ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられている。クローゼットの中には個々に小引き出しが用意され整理されている。居室の壁には職員からの誕生日のメッセージカードや家族の写真などが飾られている。自宅からテレビや連れ合いの方の遺影、本、キーボードなど思い思いのものを持ち込み、心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全に自立して過ごせるよう工夫している。トイレの場所が分かるように工夫したり、本人の居室が分かりやすいよう工夫したりしている。		